

令和5年度 田村市立船引中学校 学校評価報告書

教育目標		【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力すべき				
中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
学びプロジェクト ○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した校内研修の充実を図る。 ○ 「学びに向かう力」の育成を目指し、家庭学習の充実を図る。 ○ 読書活動・読書指導の充実を図る。	① ①(め)①(ま)を大切に「わかる・できるが実感できる授業」の実践を行う。	全職員が現職教育3年目の取組として「まとめ(振り返り)をしっかりとる」取組を強化し、生徒が「わかる・できる」を実感し、「学びに向かう力」がより高まるような実践に取り組んできた。それにより、生徒一人一人が「わかった・できた」という達成感を味わうことができ、次時につながる学習意欲が高まった。田村地区教職員研究物展で特選を受賞した。	B	授業参観で生徒一人一人の学習意欲の高さを感じました。また、先生方の取組の成果を新聞等で拝見することが多くなりました。継続的に取り組んでいる「めじま」-授業改善の視点-現職教育-目標管理制度などを運動させた取組が校内、県、全国の学力テストに成果となって表われることを期待します。	A	「主体的・対話的で深い学びを実現させた生徒の育成」を目指し、現職教育の充実を図ってきた。3年間の成果として、生徒一人一人が「わかった・できた」という達成感を味わうことができ、次時につながる学習意欲が高まった。次年度から新たな現職教育の主題のもと、3年間の成果と課題を踏まえ、生徒一人一人の「わかる・できる」が成果となって表われる授業実践に取り組んでいきたい。
	② スケジュール手帳の活用により学習サイクルを確立し、家庭学習の充実を図る指導を徹底して行う。	教員の評価が低く、年度途中に使用方法を再確認したが、生徒自身も学年が上がるにつれ評価が下がった項目である。次年度は取り組み方を再度検討し、自己マネジメント力の育成のために継続したスケジュール手帳の活用と効果的な活用方法を重点的に指導していく必要がある。	C	自己マネジメント力は学校生活に限らず、大人になっても育成していく必要があります。手帳活用の意欲が低いとなると教員集団の評価が高くないことと併せて、その理由を洗い出すことが必要ではないでしょうか。活用する大切さを教えてほしいです。	C	新年度のスタート時に改めてスケジュール手帳の効果的な活用方法について教員間で共有を図りたい。手帳の活用により生徒自身のスケジュール管理、家庭学習や読書活動などの学習サイクルが確立できるように学級担任の点検や助言を重点的に取り組んでいきたい。
	③ 毎日の「朝読タイム」の充実と「家読」の習慣化を図る。	朝読タイムやビブリオバトル、図書委員会からのお便り発行により生徒の評価は高いが、保護者は家読の機会が少ないと感じている。家庭でのメディア利用の指導と合わせ、家読の習慣化を図る支援をしていきたい。	C	文化祭でビブリオバトルを拝見し、圧倒されました。表現力はもちろん、読書から得る語彙力に驚き感心しました。学校での読書活動の意識は高いようなので、家読の習慣化を図ってください。	C	図書委員会活動の活性化や図書支援員のサポートにより学校図書館の充実が図られ、校内での読書活動の意欲は高まってきている。次年度は、小学校との連携を図りつつ本に触れる機会を増やす工夫を図り、家庭での部休日や週末の読書活動につなげていきたい。
	④ 自己目標達成に向け、主体性を育む「プラス1」の取組を推進している。	今年度からの新たな取組である。教員の後期の評価が下がったことから、生徒の高まりもあまり見られなかった。	B	教員との共有が肝になってくると思います。まずは生徒に自己分析させ、自己の長所・短所を理解させることからプラス1の取組が始まると思います。	B	生徒自身の自己分析から、生徒自身に必要感があるプラス1を考えさせていきたい。教員間でも共有した認識の元、教員自身さらには学校全体のプラス1を掲げ、全校あげて合い言葉として取り組んでいきたい。
心プロジェクト ○ 生徒一人一人を大切に、将来への自己実現を支援する。 ○ 体験活動やボランティア活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育成する。 ○ 生徒会活動の充実を図り、生徒の自主性や主体性を育てる。	④ 自己有用感を感じさせるとともに、望ましい人間関係を醸成する学級づくりの充実を図る。	学級活動でソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを実施したり、学校行事に学級単位で積極的に取り組んだりすることで、生徒一人一人が親和的な人間関係を築いている。	B	学校は、人間関係を学ぶ場所でもあります。自己有用感、人間関係についての生徒の評価が高いことはうれしく思います。楽しい学校生活こそ人間性、学力を高めてくれるものと期待しています。	B	引き続き、各学年ごとに学年始まりや長期休業明けに定期的なソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを実施し、望ましい人間関係の構築を図ってきたい。また、学校行事に積極的に参加することで、学級での絆を深めていけるよう取り組んでいきたい。
	⑤ 道徳科の授業や学校生活の中で生命の尊重、思いやりの心、協力する態度の育成を目指す。	学校全体で学年毎のローテーション道徳がさらに定着してきたことで、教員の授業力の高まりが見られている。それにより、生徒が自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に物事をとらえ、人間としての生き方について考えを深める学習が展開されている様子がうかがえる。	A	生命が軽んじられるような報道や事件が多い中、先生方が道徳教育に積極的に関わり、生命の尊さを日常的に学び考えることができていると思います。大きな震災がありました。1つ々の学びになると感じます。今後心身の温かい生徒に成長できるよう指導をお願いします。	A	次年度も各学年毎にローテーション道徳を取り入れ、教員の授業力向上を図りながら、特別の教科道徳を充実させたい。引き続き、学校行事や学校生活において、生徒自身が多様な価値観に触れ、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について深められるよう取り組んでいきたい。
	⑥ 生徒会活動（あいさつ運動等）に主体的に取り組ませ、奉仕の精神や協力し合うことの大切さを実感させる。	生徒会が中心となり、継続して朝のあいさつ運動を実施したり、全校生にあいさつについて問いかけたりの活動を行っている。生徒、教員共に後期の評価に高まりが見られ、その結果、学校全体で気持ちのよいあいさつができる生徒が増えてきた。	B	生徒会中心のあいさつ運動とても大切です。街中で船中生から元気にあいさつしてもらえることがとても嬉しいです。生徒より先ずは教員からも気持ちよいあいさつができるよう実施が必要だと思います。社会生活の中で、基本となることですので、さらに活発になるよう指導をお願いします。	A	生徒会が取り組んでいるあいさつ運動の一つの成果として捉え、引き続き本校の伝統の一つとして「いつでも どこでも 何度でも 誰とでも」気持ちよいあいさつができる生徒の育成をめざし取組を継続していきたい。また、各奉仕部委員会活動の目標や活動内容を教員と生徒が共有して取り組むことにより、各奉仕部委員会の活性化や充実を図り、より一層生徒の自主性や主体性を高める取組を展開していきたい。
体プロジェクト ○ 将来への自己実現を支える体を育てる。 ○ 部活動の活性化に取り組む。 ○ 対外的なスポーツ大会への積極的な参加を奨励する。	⑦ 食育、生活習慣づくり、性教育、薬物乱用防止教育等を行い、健康・安全教育の推進を図る。	食育については、ごはんコンテストへの積極的な参加や朝食調べ等で啓発を図っている。今年度は朝食摂取率が県平均を超え、後期の調査時に高まりが見られた。また、各学年ごとに講師を招いて思春期保健教室を開催し、健康・安全教育の充実にも努めた。HPや学年通信等での情報発信もあり、保護者の評価が最も高い項目である。	A	家庭との連携が必要な食育について保護者の評価が高いことはいよいよ傾向だと思えます。食育については健康面や学習面において重要であると考えられ、SDGsを意識した指導も印象的です。また、各学年ごとに保健教育も開催され、性や薬物への学びを深め、「自分を守る」行動について生徒自身が考えられていると思います。	A	健康・安全教育の推進を目指し、次年度もごはんコンテストへの積極的な参加や定期的な思春期保健教室の開催を計画している。また、一つ一つの取組において、生徒自身に「振り返り」をさせるといった事後指導を充実させ、生徒自身の日常生活での実践力を高められるよう取り組んでいきたい。引き続き、学校だけでなく、学年通信、HP等で積極的な情報発信し、健全な身体への成長につながるよう保護者の理解を図りたい。
	⑧ 主体的な活動姿勢の醸成を図り、特設陸上部・駅伝部の組織的な指導の充実を図る。	部活動担当教員を中心に各部活動顧問の協力体制を構築し、東北、全国大会出場を果たした部活動もあった。また、基礎体力づくりのため、朝練習に主体的に参加し、昨年度同様になわとびコンテストに参加していた生徒もいる。部活動の地域移行に向けた検討が急務である。	A	運動部も文化部も大変活躍しており、先生方の指導の賜物だと思います。運動部に関しては、怪我をしない取組も必要かと思えます。また、HPでの文化部の情報公開が少ないと保護者の方から意見がありました。少子化、地域移行という変化の中で地域の方々や協力しながら更なる高みをめざしてほしいと思えます。	A	今年度、それぞれの部活動に競技経験や指導経験をもった教員を顧問に配置し、顧問2人体制をとることで更なる部活動の活性化を図ることができた。今後も家庭や地域との連携を図り、部活動担当教員を中心に各部活動顧問の協力体制を構築し、取組を継続させていきたい。また、次年度から地域のクラブチーム等で活動する生徒については、部活動参加を強制しないという対応を始める。地域移行に向けた取組を市教委、県中体連の指導の下、検討を図ってほしい。
	⑨ 市の体育的行事やふくしま駅伝田村市チームへの積極的な参加を奨励する。	田村富士ロードレース大会に部活動ごとに参加し、競技だけでなく大会運営にも関わることで「する・見る・支える・知る」の多様な関わりを経験することができた。また、ふくしま駅伝田村市チームのメンバーとして多くの生徒が活躍した。	B	学校として地域の行事に進んで関わることの大切さを指導していただければ、地域との様々な体験・経験ができるかと考えます。支えること、支えてもらうことを経験することで、今後の生活で役立つ横や縦の繋がりを感じてほしいです。	A	次年度も市の体育的行事に積極的に参加し、競技だけでなく大会運営等にも関わることで「する・見る・支える・知る」の多様な関わりを経験させたい。特に、運動部以外の生徒の参加を増やせるように努めていきたい。また、ふくしま駅伝に参加する生徒への称賛の機会をもつことで、船中生全体が田村市に対する郷土愛を育てていきたい。
信頼される学校 ○ 保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する。	⑩ 生徒にとって、安全・安心な学校づくりに努める。	実際の災害を想定した避難訓練を3年継続して実施し、課題を教員や生徒全員で共有した。また、毎日の安全管理を全教職員で実施し、危険箇所の修繕や改修をその都度行うことで安全・安心な学校づくりに努めた。生徒、教員共に後期の高まりが見られた。	A	学校の老朽化が心配です。常に安心感をもてるのではなく、危機感をもつから安心感が生まれるという認識が必要だと思えます。通学路の危険箇所については、各支部や保護者にメール等で意見をもらうなどして情報収集をしてもよいかもしれません。「備えよ、常に」という認識をお願いします。	A	学校の老朽化が進み、年々修繕や改修が必要な箇所が出てきていることから生徒が安心して学校生活を送れるよう、毎日の管理箇所点検を教職員全員で徹底し、その都度市教委と連携を図り、安全・安心な学校づくりに努めていきたい。また、実際の災害時に生かすことができる避難訓練を実施し、教員や生徒全員で課題を共有していきたい。通学路の危険箇所については、小学校、地域と連携し、状況把握に努めていきたい。
	⑪ 学級担任、養護教諭、SSR専任教員、スクールカウンセラー、心の教室相談員等と連携し、組織的に生徒の指導や支援にあたる。	SSRも3年目の運営となり、まごころ教室との連携も深まり、より組織的な取組が行えた。SSR内でのコミュニケーションも増え、継続して登校できる生徒も増えた。また、困りごとアンケートから出てきた生徒の悩みを学年チームとして組織的に指導にあたり、問題の早期発見、早期解決に努めた。	B	SSRの運営が非常に有効と感じます。よく努力され一人一人のニーズに親身になって対応していると思えます。SSR、まごころ教室等利用生徒が増えていると聞きますが、さらにこれら取組による効果を期待します。課題を抱える生徒へは学級担任に関わらず、その生徒に合ったポジションの方が対応していくとよいと思えます。	B	次年度もSSRのより効果的な活用を模索しながら、早期発見・早期解決を意識し、組織・チームで対応できるようにするとともに、「報告・連絡・相談」の徹底を図ってきたい。また、地域や関係機関との協力体制(体験活動、ケース会議の実施等)を引き続き構築しながら、不登校生徒や家庭に寄り添った指導や支援にあたっていきたい。
教職公務員として ○ 生徒・保護者・地域の信頼のため、不祥事根絶に努める。	⑫ 教育公務員として、絶対に不祥事を起こさないように心がける。不祥事根絶のため、職員同士で相談したり、声かけを行ったりして、セーフティネットの構築を図る。	教員の不祥事防止に対する意識は高い。月に1度の服務倫理委員会では、ローテーションで各学年から全職員に「絶対に職場から不祥事を起こさない」という意識で互いに啓発している。	A	教職員同士の信頼関係が管理職の先生中心に構築されていると感じ、クリーンな雰囲気をも感じております。全国、県内の不祥事等を耳にするたび心が痛みます。今後も高い意識をもって職務にあたってほしいと思えます。	A	次年度も月に1回の頻度で開催する服務倫理委員会のもち方に工夫を加え、「不祥事を自分事としてとらえる」、「絶対に不祥事を起こさない」という一人一人の意識を高めていきたい。また、「職場全体で不祥事を起こさない」という考えによる職場の力、セーフティネットとしての機能を高めていきたい。
	⑬ 「しなやかで高め合う協働」を合言葉に教職員同士、常に協力し合って仕事を進める。	運営委員会が話し合われたことを学年会を通して周知し、教員同士の情報交換を確実にすることで共通理解を図っている。また、感染症対策においては、学校内、家庭との連絡体制を密に取り、感染拡大防止に努めている。	A	先生方の和やかな人間関係、一体感は生徒、保護者、地域に伝わると思えます。教員同士の共通理解、保護者、地域との連絡体制を実行できていることで学校に対する信頼があると思えます。今後も人間関係が密な職場を期待します。	A	次年度、学校の働き方改革の視点から業務内容の効率化や精選を進めていきたい。そこから生み出される時間を有効に活用し、学年会や教科部会を活性化し、生徒と向き合う時間を増やすとともに保護者との情報共有を図りながら、教員同士のコミュニケーションが取れる風通しのよい職場環境づくり、「しなやかで高め合う協働」で職務にあたる雰囲気づくりをさらに高めていきたい。